

大内にも供じまゐらせしとかや、この御所にも半井今大路の兩家より仰事ありて、年ごとにかはるく、是を調じて、兩御所をはじめ御方々にも奉る也、元日のあした御酒に入て是をす、め、群臣にもかはらけたまふ時、是を加へて給ふにこそ、

〔水戸歲時記〕十二月晦、○中略 醫家へ、歲暮ヲ遣ストキ、必屠蘇ヲ□□□入テ返禮アリ、其屠蘇ヲ今夜井中ニ糸ヲ以テカケオク、

〔法性寺關白記〕保安四年正月一日、已刻許、女房相共於東對面廂帳前、件帳、日者在寢殿、去夕所、令渡立也。見鏡服藥如例、件藥、施藥院使丹波重基、去夕所持來也。次於對南廂洗手如例、陪膳主殿頭惟信朝臣、

〔後深心院關白記〕應安五年正月朔日庚戌、齒固如例、二日辛亥、見鏡服藥、三日壬子、鏡藥如昨日、〔玉海〕養和二年正月一日壬申、依爲喪家之内、不見鏡、不服藥、依長元元年經賴記也、

齒固

〔運步色葉集〕齒固元三之祝言也、ハ齒固之義也、

〔故事記囊〕齒固メの辨、古へ官家の小兒、正月餅を祝すること有し、五歲迄の事なりとぞ、是を齒固メト云、いまは大人も齒がためとて餅にすわる、堂上家大人には、いまもこの事なきか、

〔世諺問答〕正月 問て云、同日、○元齒固といひて餅ひかゞみにむかふ事は、いかなることぞや、答、人は齒をもつて命とするがゆゑに、齒といふ文字をばよはひともよむなり、齒がためはよ

はひをかたむる心なり、もちひは、近江國の火切のもちひを用ひ侍るべきことなり、

〔花鳥餘情初音〕齒固は、元三の日の事なり、齒はよはひなり、則よはひともよめり、齒固はよはひを固むる意なり、高坏六本にをしきをすゑ、一の臺に餅、大根、橘を盛るなり、此餅は、近江のひきりの餅を専ら用ゐるべし、

〔江次第抄正月〕御齒固、齒謂人年齡也、齒固者延年固齡之義也、禮記文王世子曰、古者謂年齡、齒亦齡也、大戴禮云、男八月生齒、八歲而毀齒、是人壽也、